

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	編輯の後に
Author(s)	小關
Citation	龍南, 194: 105-106
Issue date	1925-07
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8813
Right	

編輯の後に

□不馴れとは云ひ乍ら殆んど失敗に近い前號を諸君にお渡しせねばならなかつた時から私の心は贖罪に燃えてゐた。又それから起つた御迷惑などさぞ多かつたことと思ふ。改めて御詫びしておく。

□本號は五十四字詰に、又前例を破つて、十七行組と云ふ大膽さへも敢へてした。之れで讀みづらい論文―殊に本號の如く多數である場合―を随分讀み易からしめたと思ふ。いつも乍ら第一回の募集に於いて私の手には一二篇しか集らなかつた。私は文字通りあきれた。思ひ切つて檄を出した。五月一日の〆切りが二十日頃までになつて。今度はあべこべに採擇に困る程。全部十五篇私はこの中から初め六篇を抜く事が出来た。が結果は御覽の通りだ。百頁を突破した。それは原稿がふへたのと又前記の組方にしたせいでもある。だが嚴選の結果著しく内容のレベルが高くなつたと信ずる。これなら「龍南」も恥づかしくないと思ふ。私は編輯者の立場として飽くまで公平の地位にあつてこのことを裁決したと諸兄に報告し得るを喜ぶ。愈々最後の時は集會所に委員が集つてきめた。

□本號は一体に論文が多かつた。渡邊君のも出てゐたが君は原川君のを推した。それから、作者の了解によるとは云へ削除の部分があつたのは遺憾である。松本君の結論が失くなつてをかしくなつたのも夫であるし、大山君のもひどい。諸兄にお詫びしておきます。

□私は「龍南」をして一方に偏せさせたくない。私はあくまで公平に立つ。前委員田代兄も云つた。「龍南」は大きな手をして待つてゐると。内容の乏しい我々の、他學說の寄せ書きや、續り合せの研究論文より、血の滲じむ様な体験と思索とから生れ出た一篇を私は限りなく尊いものと思ふ。「龍南」は之丈けかと云ふ諸兄に御願ひする。諸兄等によつて如何様とも一レベルが高まらうとつまらないものにならうと一なるのだ。之丈けかと云ふ前にペンをとつてその思索の結果を示して貰ひたい。兄等の珠玉の文字によつてこそ「龍南」は燦然と輝く。

□「ラフ」を使ひたかつた。が經費が許さない。三種の見本よりきめた。豫算の許す限りいいものにして行きたい本號は御覽の通りの表紙負け惜しみぢやないがすつきりして却つて氣持がいいと思ふ。實は速水、淺井二兄にお願いしてゐたのが間に合はなかつた。懸賞號のにとつておく積り。二兄に感謝すると共に御斷りしておきます。お願ひしてゐたのが間に合はなかつた。委員計畫の一端を發表すれば、一、採點等級を無くすることそして入選作として或レベルに達せるもの丈けを掲載する。一、批評はその號にはのせない一、委員をその分擔の選者の一員たらしめること等であるが未だ確でない。もつといい計畫があれば知らして欲しい。

□贖罪が文字通りに行はれたかどうかは出來て見れば分らぬ。又もや重い過失に陥らぬとも限らぬ。が要するに私は眞劍である。終り乍ら、いろんな意味で勵してくれた友人達に感謝の意を捧げる。(小關)